

弓達 秀樹 議員



一問一答方式

- ① 高齢者の健康づくり
- ② 保育士の確保と処遇
- ③ 児童・生徒の安全対策

高齢者の健康づくりについて

問

大阪府大東市では、住民の力で高齢者の介護予防に取り組まれ、オリジナル体操「元気でまっせ体操」を広めて介護予防の成果を上げている。

今後、本市においても介護予防への独自の取り組みが必要と考えるが、現在から将来に向けての取り組みについて、どのような考えを持っているのか。

答

介護保険法の改正に伴い、今まで全国一律で提供されていた介護予防サービスの一部が、自治体独自の事業となりました。

今後においては、高齢者の増加や介護職不足の問題などを踏まえ、元気な高齢者やボランティアの方々にもかかわっていただける生活支援や介護予防サービスを設けていく必要がありますので、現在生活支援コーディネーターを中心とした大洲市生活支援体制整備協議体において検討を重ねているところです。

保育士の確保と処遇について

問

待機児童解消対策として都市部の保育所では、保育資格のない保育補助スタッフを最低配置基準にプラスして配置しているようである。

厚労省においても、児童福祉施設においての運営や基準を一部改正する省令を通知しており、保育士と同等の知識及び経験を有すると認める者を保育士とみなすことができるよう基準の緩和策を図っている。

保育士以外でも保育ができるよう

な取り組みを現状の本市で実際に行っているのか、行われていないようであれば待機児童解消対策として今後取り組んで行くのか。

答

本市では、これまでみなし保育士となる看護師、幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭なども保育士と同様確保が容易でない状況であること、また子育て支援については基本研修の上、専門研修及び実習等が必要な地域保育コースを終了した者とされており、確保が困難であることから緩和された基準での募集はこれまで行っていません。

しかし、待機児童も発生し、保育士不足が深刻となっている現状から、それぞれの専門的な職域に不足が生じないよう配慮をしながら、また子育て支援研修の受講機会の検討を行うなど、保育の質を落とさないよう人員確保を行っていきたいと考えています。

児童・生徒の安全対策について

問

市道若宮慶雲寺線の喜多小学校交差点から国道56号に突き当た

る三差路までの歩道では、排水路にかかるふたが老朽化し、自転車のタイヤがそのすき間に入るほど大きくあいていたり、また、段差が出ている箇所、事業所や、病院に駐車する際に歩道との段差を解消するためのスロープが設置されており、雨の日には車道から歩道にスロープを駆け上がるタイヤが滑り自転車で転倒する生徒を何度か目撃した。

児童・生徒が安心して通学ができるように、特に自転車通学の生徒の安全に配慮した歩道拡幅を実現していただきたいと思うが、市の考えを伺いたい。

答

市道若宮慶雲寺線の歩道の拡幅については、現在の車道幅員からすると歩道の拡幅は可能だと思っていますが、自歩道を設置するとなると用地幅が不足するため、用地買収や移転補償が全線的に必要なようになってくることから、根本的な改善は現時点では非常に困難であると考えています。

なお、歩道の排水路のすき間や段差については、市において順次改修していきたいと考えています。